

牛久：学校周辺に見る自然

第70号 中根小

2012年2月18日発行

＜ 冬の校庭観察 ～4. 動物、その他 ＞

1/26、中根小4年生の校庭観察。最後に、昆虫や鳥などのようすを紹介しましょう。



今回も観察ビンゴカードをもって、冬の生きもの^{つめたく}のようすを観察して回りましたが、風が冷たく下もぬかるんでいて、また、探すのがむずかしいものもあり苦戦していました。私が中根小にいた4年間に、昆虫やカエル、カナヘビなどが、種類も数も減ってきたように感じています。ビンゴカードをつくるのにも苦勞^{うめ}しました。池が埋められてしまったり、野草園が畑になったことも一因でしょう。それでもまだ、いろいろな生き物が観察できるのは、校庭に大きな木が残っていて、小野川や水田、鹿嶋神社^{かしまじんじや}の林^{まわり}などが周り^{まわり}にあるおかげかもしれません。

何があるのかな？ 観察ビンゴカードを手に…。



さて、前置きが長くなりました。木の幹に、うっかり見落としてしまいそうなくらい小さなミノがついていました。ミノムシの仲間^{かしまじんじや}でなくても同じようなミノをつくるものもいて、判断がむずかしいですが、たぶん中にはチビミノガの幼虫がいます。以前は大きなミノムシも見られましたが、一昨年あたりからは小さなものしか見ていません。校庭にもいたよという情報があれば、教えて下さい。

← とても小さく、長さ1cmほどしかないチビミノガのみの。

こちらは、イラガのまゆ。秋の観察のときにたくさん見つけたヒロヘリアオイラガと同じ場所でもあり、色からもこのイラガのまゆだろうと思います。まゆの中でさなぎになるといわれますが、写真のまゆは下がこわれていました。



ヒロヘリアオイラガのまゆ（左）。右は 10/20 撮影の幼虫。



左の写真のまゆは、ガのまゆと思いますが、ツバキの葉とくらべてもだいぶ大きいことが分かりますね。ヤママユガのまゆと同じくらいの大きさです。毛のようなせんいも多く、何のまゆか分かりません。ご存知の方がいらっしゃいましたら、教えてください。

← とても大きな、ガのまゆ。毛のようなせんいも混じっている。

昆虫やクモの中には、卵で冬ごしするものも多いです。下左はジョロウグモの卵のう。卵で寒さや乾燥をさげ、まわりのネットで鳥にも食べられにくくなっているようです。右の写真は年末に写したジョロウグモのめすで、産卵を終えて腹が細くなっており、死んだままぶらさがっていました。



ジョロウグモの卵のう（左）と、産卵を終え、死んだままぶら下がるメス（右：2011.12.21 牛久自然観察の森）。



こちらも幼虫で冬ごしをしますが、ミノやまゆはもっていません。幼虫どうし、身をよせあって寒さをしのいでいるようです。幹の割れ目のなかに、かたまるようにしていました。ヨコヅナサシガメです。サクラの幹などにかたまっているのが、樹液を吸う害虫と思われがちですが、肉食性でイラガの幼虫など、他の昆虫の体液を吸うので、むしろ益虫といえるでしょう(47号参考)。ただし、不用意につかんだりすると、刺されることもあるので(毒はないようです)、気をつけましょう。赤いもようは、鳥などに対する警告の色かもしれませんね。

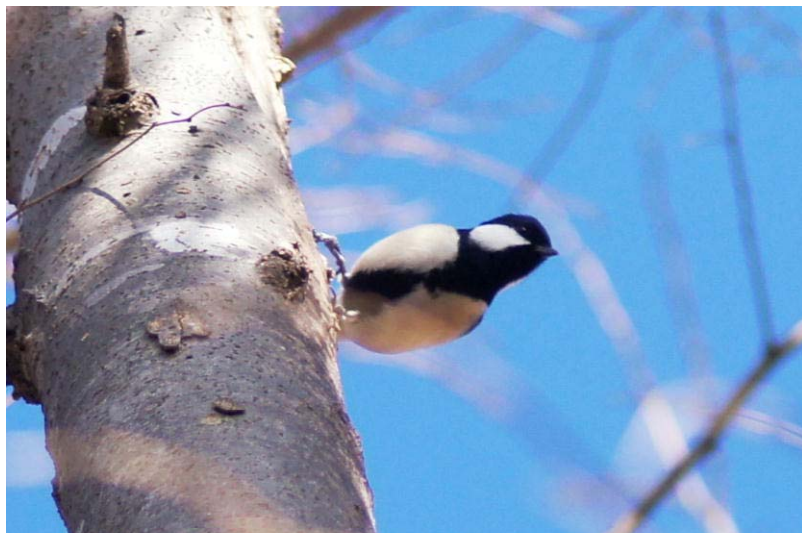


幹の割れ目に集団でかたまって寒さをしのぎ、冬ごしをするヨコヅナサシガメの幼虫（左）。樹液を吸う害虫と思われがちだが、じつは肉食性で、葉を食べる害虫などの体液を吸って生きている。右は成虫(2008.6.19)。

シロダモの葉に、こぶがいっぱいできていました。これは、いわゆる「虫こぶ」で、中には1匹ずつ、シロダモタマバエの幼虫ようちゅうが入っています。



シロダモの葉の虫こぶ(左)とシロダモタマバエ(右：2010. 3. 2)。



↑ 枝から枝へ飛びうつり、えさを探しているようすのシジュウカラ。胸のネクタイもようが目じるし。

鳥も数種類、見られました。写真はシジュウカラ。胸のネクタイむねのような黒いもようが目じるし。雑食性で、昆虫やクモ、植物の果実や種子などを食べます。

なお、ここで訂正ていせいしておきますが、「冬の野鳥観察シリーズ」で冬鳥としていたオオバン(62号)、漂鳥ひょうちゅうまたは留鳥りゅうちゅうとしていたシジュウカラ、メジロ、ホオジロ、キジバト、モズ、カワセミ(65号)は、牛久市周辺では留鳥でよいようです。牛久自然観察の森で、教えていただきました。ありがとうございました。



植物のタネの入った鳥のふんも、何カ所かにまとまって見られました。左の写真は、太い木の枝の上に落ちていたもので、芽生めばええるのはむずかしいでしょうが、運よく適した場所に落ちたものは、暖かくなれば発芽はつがし、新しい仲間となって増えることができます。鳥に美味しい果肉を与えるかわりに、種子を運んでもらっているのですね。

植物のタネの入った鳥のフン。何カ所かにかたまって見られました。



キボシアシナガバチの巣。この時期、中はからっぽ。

その他、キボシアシナガバチすの巣がありました。冬にはからっぽになっています。秋に交尾こうびが終わるとおすバチは死んでしまい、女王だけが、屋根のかわらの下や石がきのすき間などで冬をこすそうです。

それにしても、冷たい風の中、皆さん、よくがんばって観察しましたね。ごくろうさまでした。

【理科支援員 宮内】



校庭の霜柱。